

憲法改悪を許さず、
平和を守る(下)

1966年「アメリカの施政権下に
あつた沖縄を返せ」と沖縄に代表団を派
遣し、67年には沖縄支部もできました。
沖縄返還が目前に迫った71年には基地と
売春からの解放を提起し、女性の人權問
題を調査しました。女性が働く職場が極
端に少なく、社会保障が皆無の実態、前
借金と暴力団にしばられた売春、米兵に
捨てられた妻や子どもの問題など、早急
に解決が迫られるものばかりでした。72
年4月「沖縄の売春問題ととりくむ会」
を結成、世論を喚起するとともに、国会
で政府の対応を要求し、前倒しで予算を
獲得しました。



1972年5月に念願の復帰が実現したあと、沖縄の女性の人權確立を求めて代表団を迎え、総評婦人部や日本キリスト教婦人矯風会など9団体に呼びかけて、「第1回権利とくらし、平和のための婦人集会」を開催しました。

この「権利とくらし、平和のための婦人集会」は、戦後の女性運動で大きな役割を果たしてきた母親大会が、運営を担う団体の考え方で対立（非民主的運営、日中関係）し、「新たな共同行動の場」が求められていたことから、それに代わるものとして機能し始めました。



1979年元号法が通り、シーレーン防衛の強化に危機感をもった女性たちは80年12月7日「戦争への道を許さない女たちの連絡会」を結成しました。個人参加のネットワーク型の組織で、互選による世話人と婦人会議におかれた事務局で運営し、東京では8月15日のハチ公前リレートークが毎年恒例となりました。各県にも「戦争への道を許さない女たちの会」ができ、「8の日行動」などが定着しました。



1987年には「人間の鎖」で嘉手納基地を包囲しました。95年9月米兵による少女暴行事件が国際女性年北京会議終了後に起き、女性たちは「米軍基地があるかぎり、女性への性暴力はなくなるらない」と抗議に立ち上がり、怒りは沖縄全土に広がりました。「軍事化とジェンダー」の視点が開かれた時です。

